

IM 第6組 ロータリーデー 報告

大阪天満橋RC 会長

山本 喬一

ロータリーデー実行委員会 委員長

小寺 一矢

(大阪天満橋RC)

ホストクラブ：大阪天満橋RC

日時：平成27年11月21日(土) 午後1時～午後5時

場所：コングレコンベンションセンター

(グランフロント大阪北館地下2階)

参加人数：260名(一般参加者含む)

テーマ：拉致問題から見える日本の姿

講師：中山恭子氏(参議院議員)

講演テーマ：拉致問題と国家の役割

パネリスト：中山恭子氏、西村眞悟氏(前衆議院議員)、荒木和博氏(特定失踪者問題調査会代表)

今から11年前、大阪天満橋RCは第6組のIMのホストクラブとして、そのテーマを「拉致問題を学び、考える—ご家族の生の声を聞いて—」とさせていただき、拉致被害者のご家族をお招きし、拉致の実態について学びました。

あれから10年以上が経過した現在、何か変わったのでしょうか？

被害者の方々は、いまだ一人も祖国の土を踏むことなく、またそのご家族らは、我々国民と国家に対して希望を託し、絶望することなく訴えを続けておられます。他方で、私たちは、拉致問題を我が事として受け止めてきたのでしょうか？

2015-16年度のロータリーデーは、改めて拉致問題を通して、我が国日本の姿を直視する学びの場として頂ければと思い、開催させていただきました。

基調講演では中山氏が、国民、国土を守るという国家の意思をはっきりと国際社会に表明しなければ、国家は存立できないことを強調されるとともに、日本に一番欠けているのは情報であり、北朝鮮によって多くの人が拉致されていながら適切な情報を取ることもなされていなかったことを指摘されました。

その後のパネルディスカッションでは、荒木氏が拉致は昔の事件ではなく今も起こる可能性があることを指摘されました。

そして、西村氏が人命に代えても拉致された国民を救出するという声明を内閣総理大臣に発して欲しいと発言され、中山氏も首相官邸が指揮を執り拉致被害者救出の一点に絞って行動していただくようお願いしていると訴えられました。

最後に、私たち日本人として為すべきことは何かの問いかけに対して、パネリスト全員が、被害者を何としても日本に帰したいと国民の多くが願うこと、拉致問題に対して関心を持続していただくことを強調されました。

さらに、拉致被害者の横田めぐみさんのご両親から「国民が一つになって拉致問題を政府に訴えることを忘れないで欲しい」というビデオメッセージもいただきました。

参加いただいた皆様からは、口々に良い企画だったとお褒めの言葉を頂戴しました。皆様にとって有意義なロータリーデーになったのではないかと思います。

